

安全なまちづくりを



都築 一三 議員



鋭意推進している

高齢化社会を迎え、長寿の方が多くなってきたことから本町の安全なまちづくりについて以下を問う。

問 幸田町の安全なまちづくりを推進していただきたい。推進委員は現在何人か。

答 総務部長▼鋭意推進している。推進委員は、8人。

問 スクールガードは各小学校にあるのか。

答 全小中学校にあり、10団体512人が活躍されている。

問 交通指導員は何名か。

答 21人である。

問 交通安全施設点検と生徒の安全指導は。

答 本町は、193台の青パトで点検し、交通安全指導に努めている。

問 45年続けている心の元氣塾ご存知か。胸にしみわたる名称だが、存じてない。

問 鷺田地域安全ステーション建設や、大草老人憩の家開催の東京川口市立正大学生20人と、犯罪心理学第1人者小宮信天教授の安全マップづくりは、悲しい犯罪防止の撲滅を意識した企画か。

答 町長▼子どもたち場所に安全ステーションを建設した。当時は、犯罪件数も多く、不審者情報も多かった。

問 イワシの効能として十年長寿で、認



地域安全ステーション (鷺田)



子どもたちを守る交通指導員

知症予防になると聞いているが、現在、認知症の方は何人いるか。

答 健康福祉部長▼軽度の方を含めて、519人。

問 イワシのレシピコンクールで賞が記念品を。

答 オメガ3脂肪酸を含んでおり、認知症予防上からも考えた。

問 幸田町の最高齢の男女別の年齢は。

答 男性は103歳。女性は107歳。

問 幸田町の百歳以上の方の人数は。

答 男性は4人。女性は22人。



ひろの ぶさお 廣野 房男 議員

交差点に歩行者待避場所確保を

歩道隣接の町有地を舗装する



子どもたちが通学路で交通事故に巻き込まれ、死亡するという悲惨なニュースが後を絶たない。

幸田町内の通学路の安全性向上対策を問う。

問 千葉県八街市で起きた通学路での交通事故の後、町内通学路の総点検を行ったか。

答 千葉県八街市で起きた通学路での交通事故の後、町内通学路の総点検を行ったか。教育部長▼7月12日付で教育委員会から各学校に依頼し実施した。現在、危険個所の取りまとめをしている。

問 今回の総点検は、地域から出ている要望と同じか、新たな発見はあったか。

答 新たに5件出ている。ガードレールのない所の防護柵、ガードレール設置、見通しの悪い横断歩道の押しボタン信号の設置等。

問 上六栗の県道蒲郡碧南線の、歩道を含めた拡幅工事の完成目標は。

答 建設部長▼現時点では明確ではない。用地取得が少しでも早く進むよう、県と協力して進める。

問 上六栗の県道幸田幡豆線の、歩道設置と交差点改良工事の計画はあるのか。

答 県道蒲郡碧南線整備事業完了後に、事業化を目指し、県と相談しながら検討する。

問 六栗信号交差点で、子ども達が県道を渡ったあと歩道にたまり、自転車の人達と接触して危ない。歩行者の待避場所が必要だ。

答 歩道に隣接した町有地を舗装整備し、退避スペース確保に努める。

六栗西山林道開設へ町の支援を

事業採択に向け進めたい

六栗の西山森の道整備隊（ボランティア）の活動は、子どもたちの未来の森づくり事業に認定され、林道開設に弾みがついてきた。

問 緑のふるさと協力隊の事業は、次年度も継続して欲しい。

答 環境経済部長▼今年度の実績・成果を検証し、継続実施を前向きに検討したい。

問 町の組織に里山開連の部署や専任者を設けて頂きたい。

答 総務部長▼職員1人分の業務量は少ないとの判断で、配置していない。

問 西山林道線形調査は進んでいるか。

答 環境経済部長▼現在発注準備を進めている。地域の意見を伺いながら進める。

問 幸田町として、西山林道開設に、本格的な支援をお願いする。

答 将来に向けた問題点や課題を整理し、県協議もしながら、事業採択に向け進めたい。

問 「こうた健康ヒルズ」構想がある。

答 森の道整備活動は自然の中の健康ヒルズと考えている。町長の見解を問う。

問 町長▼地域の方々に学んで頂ける、地域住民の交流参画の場である。健康にもとてもいいものだと思う。SDGsの活動の一環としても有意義である。



六栗の里山整備作業をする南中1年生